

九州が国内防衛の最前線へ！

西日本新聞 2023年12月2日 福岡県版 1/28

空港・港湾防衛力強化へ

30～40施設 九州・沖縄 7割扱

自衛隊と海保平時も訓練

政府が昨年12月に改定した国家安全保障戦略に基づき、防衛力強化のため九州・沖縄を中心とした全国30～40の空港と港湾を整備対象候補に選び、自治体と調整を始めたことが分かった。自衛隊と海上保安庁が平時の訓練で使用できるよう滑走路や舷壁を拡充する。東アジアの緊張を背景に、公営インフラの軍事的利用が一層加速する。

【3面に関連記事】

複数の政府関係者や自治体が明らかにした。政府は自治体の意向が得られれば施設を「特定重要拠点(仮称)」に指定し、2024年度予算案に整備費など関連予算を計上する。

西日本新聞が入手した非公開リストや資料によると、有事の際の部隊展開や物資輸送、国民保護の拠点整備などが主な目的。熊本、鹿児島、高知、香川、福岡を重点とした海道の16の拠点を挙げて、中国による台湾有事を念頭に

にした防衛力の「南西」上の一環で、九州・沖縄の14港湾・14港湾を口にする。自治体へは、リストがない旅振られた自治体もある

九州・沖縄を中心に30～40施設の空港と港湾の7割が防衛力強化のために整備をおこなうことが報道されています。

反撃能力の保有や台湾情勢などを根拠に、九州が国内防衛の最前線化へととなります。

11月29日には、米空軍機オスプレイが屋久島沖で墜落しています。

九州の防衛問題について考えよう！